

4、こども 部会

部会長 府川裕一 副部会長 丸山志野 執行委員 塩手奈緒子
執行委員 藤田圭子 執行委員 宮澤俊樹 執行委員 青島裕樹
執行委員 伊藤史佳 療育C 熊谷恵子 療育C 安川健治
ケアマネ連絡会 相談員 樺沢直子 相談員 本藤雅奈美 相談員 二木里美
長野市障害福祉課担当者 北澤恵子 運営委員会担当者 小島健一・岸田隆

1、年間テーマ

各関係機関との連携の在り方

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
7	14	にじいろ	47	放課後等デイサービス事業所連絡会	コロナ対応における情報共有
9	29	にじいろ	36	学齢期支援連携会議	各機関との連携の在り方
11	19	にじいろ	22	児童発達支援事業所連絡会	事業所間の情報共有
12	17	にじいろ		乳幼児期支援連携会議	コロナウィルス感染防止のため中止
1	26	にじいろ		全体会	コロナウィルス感染防止のため中止

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

・「情報ツゥー」の発行

4、課題について

(1) 主な検討課題

- ・コロナ禍における各機関の対応と現状の把握
- ・事業所の抱える課題の吸い上げ
- ・各機関との連携の在り方

(2) 検討の目的と結果（現状）

放課後等デイサービス事業連絡会では、コロナ禍における臨時休校中の対応の共有や、第2波第3波に備えての情報交換などをメインテーマとし行った。連絡会で取り上げられた課題や各機関との連携の在り方について、行政担当者や学校関係者との意見交換を学齢期支援連携会議にて行った。会議では休校中に出た課題や要望（休校中に体育館やグラウンドを開放していただけないか、休校や分散登校などの情報を事業所にもいただけるか、など）について、各担当者と話し合うことができ、今後の連携の糸口となる一歩を踏み出した。

児童発達支援事業所連絡会では事業所での取り組み、保育園への移行や併用児童の連携への取り組みなどの情報交換を行い、意識の向上を図ることができた。幼児期支援連携会議は感染拡大防止のため中止となってしまったが、各機関それぞれ連携の向上に前向きに取り組んでいきたい意向が見られたため、是非来年度は実施したい。

(3) 引き続き検討が必要とされる課題

次年度は今年度に引き続き、乳幼児期・学齢期ごとに連絡会を開き、福祉の現場での課題や問題点を吸い上げ、子育て・福祉・保健・教育・幼保等の行政担当者、特別支援学校等の学校担当者などの関係者と支援連携会議を開催する活動を実施していきたい。

(4) 部会の運営体制について

今年度部会長・副部会長を始め、新たな執行委員会として活動を実施した。コロナ禍でありながらも全体で協力し活動の在り方を作ることができたので、来年度も可能な限り執行委員の方には継続をお願いしたい。

(5) 総括（1年間を振り返って）

コロナ禍における現場の混乱や感染防止の観点により中止せざるを得ない状況に見舞われたが、その中で新たに取り組むべき課題を見つけられることができた。今後も連絡会→連携会議という土台をしっかりと固めていきながらこどもたちに必要な支援を全体で作りに上げていきたい。